広島大学附属三原学校園研究紀要　第６集　2016　pp. 243-248

英　語　科

中学校英語科におけるスピーチ活動の指導

―「ものを紹介しよう」の実践を通して―

松　尾　砂　織

１　はじめに

学習指導要領において中学校外国語科の目標は，「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」とある[1)]。したがって言語や文化に対する理解を深めるとともに，外国語を用いて積極的にコミュニケーションをとるための手段を子どもたちに与えていくことが必要である。

本学校園の外国語科では，昨年度まで「学ぶ意義を感じながら課題に粘り強く取り組む子どもの育成」として研究を行ってきており，特に「書くこと」における授業改善や指導の工夫に重点を置いて取り組みを進めてきた。その結果，学ぶ意欲に対する大きな変化を見とるまでには至らなかった。今年度からは，めざす子ども像を「外国語や外国の文化に関心を抱き，理解しようとするとともに，様々な人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする子ども」と設定し，小学校と中学校で連携をとりながら通教科的能力の視点をもって授業づくりを行うことを通して，外国語活動・外国語科の本質に根ざした資質・能力を育んでいくこととした。[2)]

２　研究の構想

広島大学附属三原学校園は，平成24年度より文部科学省研究開発学校の指定を受け「社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観の体系的な育成のための，幼小中一貫の新領域を核とした自己開発型教育の研究開発」を研究課題として取り組んでいる。平成27年度からの３年間の研究の重点の１つとして，「『教科・領域』のつけたい力と『希望（のぞみ）』で育む資質・能力との関連を明らかにすること」と提示した。これは，「希望（のぞみ）で培ってきた資質・能力を通教科的能力と位置づけ，保育・教科の本質に根ざした資質・能力とその関連を明らかにし，全教育活動において育成に取り組もうとするものである。第一年時となる今年は，次のような取り組み（①通教科的能力と保育･教科の本質に根ざした資質･能力との関連表の作成，②保育教科構想の作成，③通教科的能力と関連的に育む保育・教科の本質に根ざした資質・能力を目標として位置付けた単元指導計画・指導案の作成と実施，④評価方法の明確化，実践事例の提示，⑤１２年間の一貫教育の系統表の作成，⑥４年次の評価）を推進した。本研究では，４技能である「聞くこと，話すこと，読むこと，書くこと」のうち，「スピーチ活動を通して話すこと」の力をつけるための通教科的能力と関連的に育む保育・教科の本質に根ざした資質・能力を目標として位置付けた単元指導計画・指導案の作成と，授業実践の一考察を行う。

３　実践事例

(1) 単元名

Sunshine English Course1「Program 8 *Origami*」

(2) 実施時期

平成27年11月に７時間実施した。

(3) 対象学年

広島大学附属三原中学校第１年の１クラス 40

名の生徒を対象に実践を行った。

(4) 単元について

折り紙は日本文化の一つであり，中でも折鶴は平和の象徴である。本学年の生徒は，希望の学習の一環で，折鶴を折って広島平和公園に納めた経験があるため，折り紙を身近なものとしてとらえている。本単元は，大介が折り紙の人形 Noa-chan をクラスの友だちに見せながら Show & Tell を行ったのち，大介がウッド先生と折り紙について対話する形式になっている。言語材料は助動詞 can が導入される。助動詞は三人称単数現在による一般動詞の変化がないため，生徒にとっては理解しやすく，様々な主語や動詞を用いて自分や友だちのことについて表現できる言語材料であり，実物や絵を示しながら Show & Tell のスピーチ活動を体験させることができる教材である。

(5) 指導にあたって

指導にあたっては，生徒が助動詞 can の意味や用法を理解した上で，自分ができることについて述べる場面を設定し，活用させたい。活用の場面で行うペア活動においては，英語学習に対する気持ちを高めるだけでなく，英語が苦手な生徒も興味関心が持てるテーマ設定として，お互いの特技を聞きあうなど生徒同士が主体的に学び合える機会を設けることで，積極的なコミュニケーション活動が行えるようにする。スピーチをする場面では，聞き手を意識するための工夫として，声の大きさ，発音，聞き手とのアイコンタクトの取り方，物の見せ方などを練習させ，自信を持って友だちの前で発表ができるように指導する。さらに今回の「ものを紹介しよう」のスピーチ活動が，次時の単元「人を紹介しよう」のスピーチ活動につながるように指導していく。

(6) 単元の目標

○ペアや班での言語活動や音読活動を通して，コミュニケーションへの積極性を身につけさせる。
○助動詞 can を用いて，できることやできないことを相手に伝えたり，尋ねたりすることができるようにする。
○助動詞 can や疑問詞 how の意味や用法について正しく理解させる。
○本文を聞いたり，読んだりする活動を通して，内容を理解できるようにする。
○本文の内容について，絵を見ながら簡単な英語で説明できるようにする。

(7) 単元の評価規準

○コミュニケーションへの関心・意欲・態度
①ペアや班での言語活動や音読活動を積極的に取り組んでいる。
②積極的に音読活動に取り組んでいる。
○外国語表現の能力
①助動詞 can を用いて，できることやできないことを相手に伝えたり，尋ねたりすることができる。
②絵や写真を見せながら，簡単な英語で説明することができる。
○外国語理解の能力
①本文を聞いたり，読んだりして，内容を理解できる。
○言語や文化についての知識・理解
①助動詞 can の意味や用法について正しく理解している。
②疑問詞 how の意味や用法について正しく理解している。

(8) 授業構成（全８時間）

第１次　助動詞 can の意味や用法を理解し can を用いて，できることできないことを伝える（１時間）
第２次　Part１の内容を理解する（１時間）
第３次　助動詞 can の疑問文の作り方と答え方を理解し質問したり答えたりする（１時間）
第４次　Part２の内容を理解する（１時間）
第５次　疑問詞 how の意味や用法を理解し how を用いて質問したり答えたりする（１時間）
第６次　Part３の内容を理解する（１時間）
第７次　助動詞 can を用いて，簡単な英語で Show &Tell のスピーチをする（２時間）

(9) 本単元で育む「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力」

本単元における「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力」の育成のポイントは，助動詞 can を用いて Show and Tell のスピーチ活動を行う中で，一人ひとりがアイコンタクトをとりながら話すことができる力を育成することである。また，単元で育む「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした

資質・能力を表１に示す。

表１　単元（題材）で育む「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力」

通教科的能力	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
教科の本質に根ざした資質・能力	英語を使って考えや気持ち，事実を伝え合いながら，さまざまな人とよりよい人間関係を築くことができる。（コミュニケーション能力）	異文化を理解し，自文化を見つめ直したり比較したりすることを行う中で，文化の価値や自分の生き方について考えることができる。（自己存在感・自己有用感）	他者と関わりながら，粘り強く課題に対応することができる。めあてや目標に向かって，課題に取り組むことができ，学習したことをふり返ることができる。(課題解決力)
具体的な姿	自分自身で課題達成が難しい場合は，ペアや班内で話し合ったり，教え合ったりしながら意欲的に学習に取り組んでいる。	助動詞を用いてインタビューをすることによって，自分の特技を相手に伝えたり相手に質問したりしながら，積極的にコミュニケーションを取ろうとする。	発表をする時には，工夫すべき点を理解し，聞き手を意識して話している。
指導の手立て	助動詞 can を用いてできること，できないことをまとめ，発表する活動を班で行い，よかった点を全体で交流させる。	助動詞 can の意味や用法についての知識を身につけさせるために，パターンプラクティスを繰り返し行わせ，知識の定着を図る。	新出語句を用いたインタビュー活動を行ったり，ペアや班で交流する機会を設けたりして，生徒同士で学び合える活動を行う。
評価方法等	生徒の活動の様子を観察して評価する。生徒に振り返りカードを書かせて，学習目標に対する自己の達成度を考えさせ，自己評価をさせる。	スピーチ原稿の内容を生徒自身が，また指導者がそれぞれ評価する。評価項目については，あらかじめ生徒伝えておき，評価させる視点を理解させた上で行わせる。	聞き手を意識した話し方の工夫ができているかに関してのパフォーマンス評価をする。評価項目については，あらかじめ生徒に伝えておく。
期待される主体的な学びへの効果	よかった点を全体で認めることで，自信を持って話をすることができるようになる。	話すことに対する興味関心が高まり，聞き手に分かりやすい話し方を考えるようになり，声の大きさや実物や絵を示したり，聞き手とのアイコンタクトを意識したりして話すようになる。	他者とのコミュニケーション場面において，自分の考えが相手に伝わりやすい表現方法を吟味するようになる。また，次回スピーチをする際には，どの点に気を付けて行えばよいか等，自身の発表を分析できるようになる。

(10) 授業の実際

８時間の授業実践のうち，スピーチ活動の準備段階である第１次から第６次までの概要を述べる。第１次は，助動詞 can の意味・用法の理解と，can の活用を目標とした。助動詞 can の意味や用法を学習してから，ペア活動を行った。自分は何ができて何ができないかをペアに伝えたり，他の人に質問したりする活動を通して，can を用いて積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。第２次は本文 Part1 の内容理解と，スピーチ活動の原案となる教科書の本文と写真図１を学習した。図１は，大介がクラスで行った Show & Tell の場面で用いている文で，紹介するものを見せながら説明する形式になっている。紹介するスピーチ原稿の構成を考える際には，全て自由とせず，図１を基本に書くように指導した。その理由

として，クラス内において文を構成したり，文を書いたりする力に差がある生徒実態を考慮し，書く指導に重点をおかず，話す指導に重点をおく単元として位置付けたからである。

Do you know this doll? Its name is Noa-chan. The name comes from the Nippon Origami Association. I' m a member of NOA. I learn origami with my friends there every week. I can make this doll. I can make some animals too. Look at these.

図１　教科書の本文と Noa-chan の写真

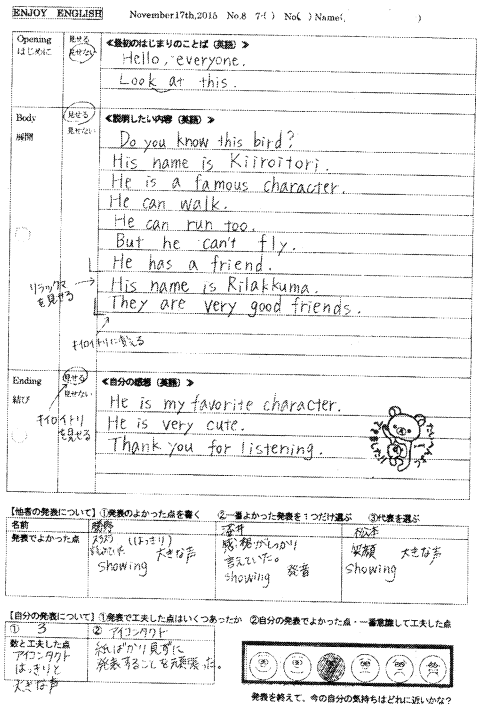
文法事項を指導した第３次と第５次では，ペア活動を多く取り入れることで，それぞれの答えをシェアリングしたり，生徒同士で教え合いをしたりする場面を設けた。第３次は，助動詞 can の疑問文の作り方と答え方を学習し，can を用いて積極的に質問したり答えたりする活動をペアでなく，インタビュー形式で行ったので，多くの友だちとコミュニケーションがとる姿が見られた。第５次は，疑問詞 how の意味や用法を理解した上で，how を用いて質問したり答えたりするペア活動を行った学習を行った。第４次と第６次は，教科書 Part ２と Part３の本文の内容理解を行った。Part１で大介が行ったスピーチに対してウッド先生が質問するという流れになっており，助動詞 can を含む応答文を繰り返し学習させ言語知識の定着を図った。

第７次の２時間で単元のまとめ学習としてスピーチ発表と，単元の振り返り学習を行った。生徒がスピーチ原稿で使用する基本文は図１であるが，それ以外に指導者が図２を提示しながらモデルスピーチを行った。英文を書くことが苦手な生徒にとっては，ただ英文を提示するだけでなく，やって見せる方が効果的であると考えた。

Hi, class. Look at this picture. Its name is Ramune. His nick name is Ramu chan. He is Ayaka' s cat. He is almost two years, so he is young. He can jump high. He can run fast. He can talk with Ayaka. I meet him every Friday. So I' m so happy. I like ramune very much. Thank you for listening.

図２　生徒に提示した例文と写真

スピーチ原稿を書く際に，生徒たちは辞書を用いたり，ペアとの聞き合いを経て英文を足したりして，完成するまで図３のように英文を書いた。


ENJOY ENGLISH　November 17th, 2015　No.8　7(　)　No.(　) Name(　　)

Opening はじめに　見せる / 見せない
《最初のはじまりのことば（英語）》
Hello, everyone.
Look at this.

Body 展開　見せる / 見せない
《説明したい内容（英語）》
Do you know this bird?
His name is Kiiroitori.
He is a famous character.
He can walk.
He can run too.
But he can't fly.
He has a friend.
His name is Rilakkuma.
They are very good friends.
リラックマを見せる
キイロイトリに教える

Ending 結び　見せる / 見せない
《自分の感想（英語）》
He is my favorite character.
He is very cute.
Thank you for listening.
キイロイトリを見せる

【他者の発表について】①発表のよかった点を書く　②一番よかった発表を１つだけ選ぶ　③代表を選ぶ

名前	勝俣	澤井	松本
発表でよかった点	ふつう（はっきり） まねしやすい　大きな声 showing	感謝がしっかり言えていた。 showing　発音	笑顔　大きな声 showing

【自分の発表について】①発表で工夫した点はいくつあったか　②自分の発表でよかった点・一番意識して工夫した点

① 3	② アイコンタクト
数と工夫した点 アイコンタクト はっきりと 大きな声	紙ばかり見ずに 発表することを意識した。

発表を終えて、今の自分の気持ちはどれに近いかな？

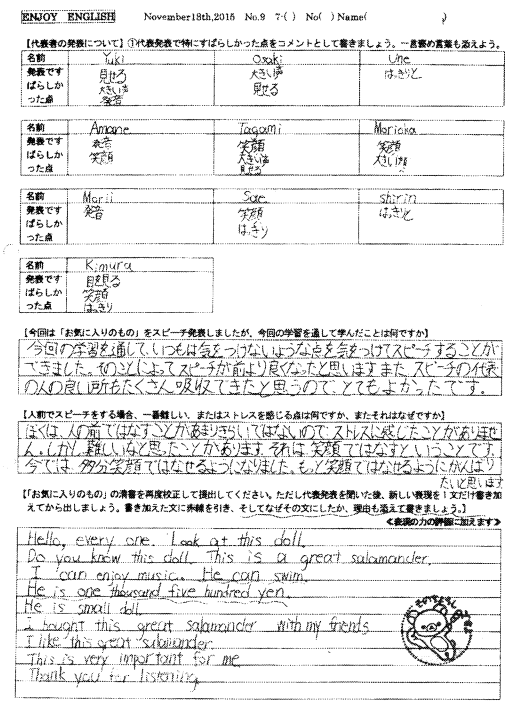
図３　生徒の発表原稿

書いた英文を個人で繰り返し練習する前に，スピーチをする時に工夫すべき点およびスピーチの良し悪しを左右する評価項目を確認した。今回の工夫点は「大きな声，英語らしい発音，絵を示しながら，聞き手とのアイコンタクトを取り方に気

をつけること」とし，個人練習をしてからペアで読む練習をした。ペアに発表を聞いてもらいながら，よりよいスピーチにするために改善しようとする姿があった。スピーチ発表は，班内で紹介しあう形式とし，聞き手を意識して発表することを第一とした。生徒たちは，発表のよかった点をまとめながら班員の発表を聞き，班内で振り返りをして，一番よかった発表を１つ決め，各班の代表が前で発表をした。代表者のスピーチを聞いた後に，次の視点で単元のまとめ学習を行い，図５と図６にまとめた。

① スピーチ活動を通して，どんな力がついたか。
② 次にスピーチを実施する場合は，どんな点を改善しようと思うか。

図４　班内でスピーチをする様子



ENJOY ENGLISH　November 18th, 2016　No.9　7-( )　No( )　Name( )

【代表者の発表について】①代表発表で特にすばらしかった点をコメントとして書きましょう。一言感の言葉も添えよう。

名前	Yuki	Osaki	Une
発表ですばらしかった点	見る 大きい声 発音	大きい声 見る	はきりと

名前	Amane	Tagami	Morioka
発表ですばらしかった点	発音 笑顔	笑顔 大きい声 見る	笑顔 大きい声

名前	Mori	Sae	shirin
発表ですばらしかった点	発音	笑顔 はきり	はきり

名前	Kimura
発表ですばらしかった点	見る 笑顔 はきり

【今回は「お気に入りのもの」をスピーチ発表しましたが，今回の学習を通して学んだことは何ですか】

今回の学習を通していつもは気をつけないようなことを気をつけてスピーチすることができました。ものごとによってスピーチが前より良くなったと思います。また，スピーチの代表のAの良い所もたくさん吸収できたと思うので，とてもよかったです。

【人前でスピーチをする場合，一番難しい，またはストレスを感じる点は何ですか，またそれはなぜですか】

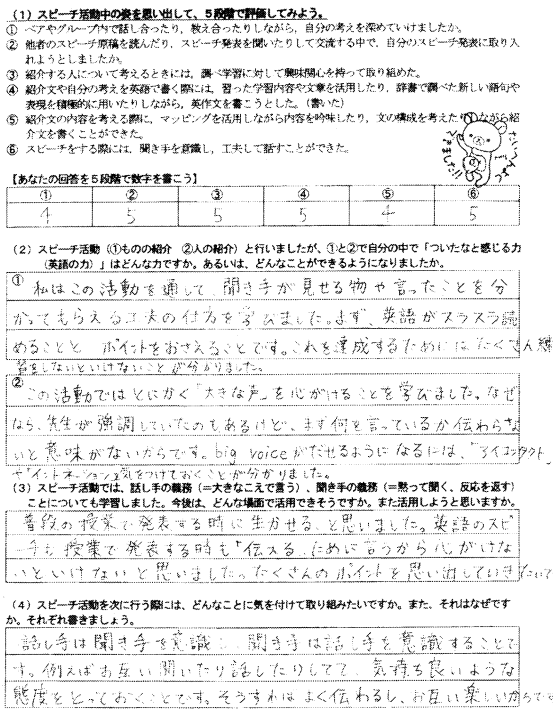
ぼくは，人の前ではなすことがあまりきらいではないので，ストレスに感じたことがあまりません。しかし，難しいなと思ったことがあります。それは笑顔ではなすということです。今では，多分笑顔ではなせるようになりました。もっと笑顔ではなせるようにがんばりたいと思います。

【「お気に入りのもの」の清書を再度校正して提出してください。ただし代表発表を聞いた後，新しい表現を１文だけ書き加えてから出しましょう。書き加えた文に赤線を引き，そしてなぜその文にしたか，理由も添えて書きましょう。】

<表現の力の評価に加えます>

Hello, every one. Look at this doll.
Do you know this doll. This is a great salamander.
I can enjoy music. He can swim.
He is one thousand five hundred yen.
He is small doll.
I bought this great salamander with my friends.
I like this great salamander.
This is very important for me.
Thank you for listening.

図５　生徒の振り返り①



（1）スピーチ活動中の姿を思い出して，５段階で評価してみよう。
① ペアやグループ内で話し合ったり，教え合ったりしながら，自分の考えを深めていけましたか。
② 他者のスピーチ原稿を読んだり，スピーチ発表を聞いたりして交流する中で，自分のスピーチ発表に取り入れようとしましたか。
③ 紹介する人について考えるときには，調べ学習に対して興味関心を持って取り組めた。
④ 紹介文や自分の考えを英語で書く際には，習った学習内容や文章を活用したり，辞書で調べた新しい語句や表現を積極的に用いたりしながら，英作文を書こうとした。（書いた）
⑤ 紹介文の内容を考える際に，マッピングを活用しながら内容を吟味したり，文の構成を考えたりしながら紹介文を書くことができた。
⑥ スピーチをする際には，聞き手を意識し，工夫して話すことができた。

【あなたの回答を５段階で数字を書こう】

①	②	③	④	⑤	⑥
4	5	5	5	4	5

（2）スピーチ活動（①ものの紹介　②人の紹介）と行いましたが，①と②で自分の中で「ついたなと感じる力（英語の力）」はどんな力ですか。あるいは，どんなことができるようになりましたか。

① 私はこの活動を通して，聞き手が見せる物や言ったことを分かってもらえる工夫の仕方を学びました。まず，英語がスラスラ読めることと，ポイントをおさえることです。これを達成するためには，たくさん練習をしないといけないことが分かりました。

② この活動ではとにかく「大きな声」を心がけることを学びました。なぜなら，先生が強調していたのもあるけど，まず何を言っているか伝わらないと意味がないからです。big voice がだせるようになるには，「アイコンタクト」や「ポイントをおさえる」気をつけておくことが分かりました。

（3）スピーチ活動では，話し手の義務（＝大きな声で言う），聞き手の義務（＝黙って聞く，反応を返す）ことについても学習しました。今後は，どんな場面で活用できそうですか。また活用しようと思いますか。

普段の授業で発表する時に生かせると思いました。英語のスピーチも授業で発表する時も「伝える」ために言うから心がけないといけないと思いました。たくさんのポイントを思い出していきたいです。

（4）スピーチ活動を次に行う際には，どんなことに気を付けて取り組みたいですか。また，それはなぜですか。それぞれ書きましょう。

話し手は聞き手を意識し，聞き手は話し手を意識することです。例えばお互い聞いたり話したりして，気持ち良いような態度をとっておくことです。そうすればよく伝わるし，お互い楽しいからです。

図６　生徒の振り返り②

４　結果と考察

本研究は，スピーチ活動を通して話すことの力をつけるための通教科的能力と関連的に育む保育・教科の本質に根ざした資質・能力を目標として位置付けた授業づくりならびに授業実践を行うことであった。図５は，生徒が書いた振り返り①であり，図６は振り返り②および意欲関心態度に関する５段階のアンケート調査である（平成 26 年 12 月 11 日実施，実施生徒数 38 名）。

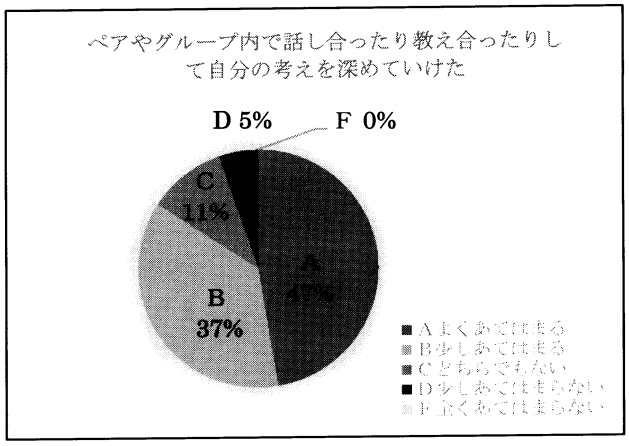


図７　人間関係形成・社会形成能力について

図７の人間関係形成・社会形成能力について尋ねた結果，84%の生徒がペアやグループでかかわる活動によって，自分の考えが深まったと考えていることが分かった。また，全く深まらなかったと考えている生徒は一人もいなかった。図６から無作為に生徒を抽出し，表１にある通教科的能力を人間関係形成・社会形成能力をア，キャリアプランニング能力をイ，課題対応能力をウとして分類すると，本単元において生徒がついたと感じている力は，キャリアプランニング能力と課題対応能力であると感じていることが分かった。

生徒A

ものは特にキャラクターの人形紹介などだったので，キャラクターの物語から抜き出すまでは良かったけど，それを英語にするのは難しかった。しかし，その分 New 単語の意味やスペルを知ることができた。ウ) もっと，動作をして発表すればさらに自分の言いたいことが相手に伝わると思います。たとえば，これはここがかっこいいと言いた時，指さすだけでも相手に伝わりやすくなると思います。次にスピーチ活動を行う時は，全身を使って発表したいイ) と思いました。

生徒B

自分で文章(英語の)を構成していく力がついた。どう表したらいいだろうと疑問を持って，まわりの人や先生に聞くことができた。ウ) 自分で分からない単語のスペル・発音を電子辞書で調べることができた。大きな声でというのは，引き続き続けたい。そして強調したところをもっと強調させたい。理由は，今回は強調させたい所がスピーチを聞いてもらった人に分からなかったから，次回はそこを頑張りたい。イ)

生徒C

もの紹介では，つけ加える力がついたと思います。なぜなら，人の発表を聞いて自分の原稿に文章を付け加えることができたウ) からです。人の良い所をしっかりと取り入れて，もっとよくなるように頑張りたいと思います。ぼくは文章に強弱をつけて読みたいと思いました。なぜなら，今回の発表の時にメインパート（＝一番伝えたいこ点）が分からないと言われたからです。イ) だから，気を付けたいと思いました。強弱をつけるのは難しいけれど，頑張りたいと思います。

5　終わりに

本研究は，スピーチ活動を通して話すことの力をつけるための通教科的能力と関連的に育む保育・教科の本質に根ざした資質・能力を目標して位置付けた授業実践の一考察である。生徒の記述や行動観察から，こちらが設定したキャリアプランニング能力および課題対応能力に対して，期待される主体的な学びへの効果の片鱗は伺うことができた。しかしながら，人間関係形成・社会形成能力においては，「英語を使って考えや気持ち，事実を伝え合いながら，さまざまな人とよりよい人間関係を築くことができるといったコミュニケーション能力の育成」をめざして指導したものの，生徒はそれが力として身についたと感じていないことが分かった。ペアや班内で話し合ったり，教え合ったりしながら意欲的に学習に取り組んでいる姿は見てとれたが，期待される主体的な学びへの効果として「よかった点を全体で認めることで，自信を持って話をすることができるようになる」までは高めることができなかった。英語でスピーチをする活動は，今後も継続実施して行う言語活動であるので，話し手の意識と聞き手の意識を高めながら，できるようになったこと，次に改善していくことを明らかにできる学習集団へと高め合う指導に必要性とその能力をみとる評価方法の開発を継続して行いたい。

＜注および引用文献＞

1)　文部科学省：「中学校学習指導要領解説外国語編」，pp. 9-18，2008, 開隆堂.

2)　広島大学附属三原学校園：「外国語活動・英語科研究構想～通教科的能力と関連的に育む外国語活動・英語科の本質に根ざした資質・能力～」，pp. 69-70, 2015, 三好印刷.